

# 令和5年度 富士河口湖町総合教育会議資料

富士河口湖町立教育センター  
所長 藤巻 桂吾

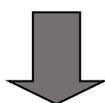
## 1 はじめに

※富士河口湖町立教育センター

○平成17年に開設

○目的：研修、研究、開発及び啓発を行い、教育振興、児童・生徒の健全な育成に寄与する。

○設置条例第3条を基本に、8項目の事業を展開



○平成27年度

- ・富士河口湖町中央公民館1階に移転
- ・今年度、8年目を迎えた



## 2 教育センター設置条例における事業について

第3条 教育センターは、次に掲げる事業を行う

- (1) 教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること
- (2) 教育関係職員の研修に関すること
- (3) 教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること
- (4) 教育相談に関すること
- (5) 前各号に掲げるもののほか富士河口湖町教育委員会が必要と認める事項



具体的に9項目の取り組みを行っている

- ①教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること
  - \* **理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成**（基本的には4年に一度改定）  
令和5年度～6年度は理科・環境副読本の改訂年にあたる
    - ・企画委員会の開催（代表7名） ・編集委員会（各校一人）
    - ・専門機関との連携（富士山科学研究所、町生涯学習課文化財担当、世界遺産センター、河口湖フィールドセンター、富士山自然保護センター等）
  - \* **富士山学習の充実**（富士山科学研究所、富士山世界遺産センター等との連携）
    - ・「河口湖新倉掘抜学習」
    - ・「防災教育プログラム化」
  - \* 新学習指導要領に向けての調査研究
    - ・「小学校外国語」「社会に開かれた教育課程」の実現のための支援

- ②学習開発に関すること
- \* 地域を生かした体験活動（センターのプログラム）
    - ・「木工の学習」：図工3・4年生（西湖野鳥の森公園）（12回）
    - ・「役場見学」：社会科3年生（学校教育課を中心に各課と連携）（5回）
    - ・「河口湖新倉掘抜」：社会科4年生（生涯学習課文化財担当）（9回）
- ③教職員の研修に関すること
- \* 町単・期採・代替職員等の研修会（3回）
  - \* 支援員対象研修会（1回）
  - \* 新転入・新採用教職員等の郷土学習会（夏季休業中：町内施設の見学・学習会）
  - \* スキルアップ講座
    - ・外国語研修会（1回）
    - ・ICT研修会（情報教育研修会1回 職員への研修4回）
- ④教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること。
- \* 教育に関するアンケート調査「子どもの生活・意識アンケート」  
R5年度は「保小連携」「情報教育」「英語教育」3種類のアンケート
  - \* 教育センターだよりの発行（月2回）
- ⑤必要な研究組織の設置と運営に関すること。
- \* 運営協議会（教育センターの運営について、年に2回検討を行う）
  - \* 富士山学習研究会（5回）
    - ・各学校より1名の協力者を得て、企画運営を行う。
    - ・富士山学習の充実に向けての組織的研究
  - \* 特別支援教育研究会（特別支援コーディネーターの連携と研修）（1回）
  - \* 外国語教育研究会（1回）
    - ・小学校外国語科・外国語活動、英語教育の小中連携についての研究
- ⑥教育相談に関すること。
- \* 令和4年度の相談件数：574件（令和5年度10月現在413件）
    - ・町SSW、就学相談担当等との連携
    - ・学校と連携したケース会議の実施
    - ・保護者面談の実施
- ⑦幼保、小、中、高、大・関係機関等との連携に関すること。
- \* 保小中連携協議会の開催
  - \* 各保育所への訪問（情報交換）
  - \* 町SSW、就学相談員との連携
- ⑧代替派遣に関すること
- \* 代替職員の授業派遣：令和4年度：要請115回、派遣92回  
令和5年10月まで 要請56件、派遣39件
- ⑨その他目的達成に必要なこと。 \*不審者対策
- ・青色灯パトロールカーの巡回時間帯、コース等各学校とりまとめ  
（町地域防災課との連携）

### 3 具体的な取り組み（特に力を入れている取組・連携等）

#### (1) 相談業務（教育相談）

##### ① 2022年（令和4年度）の状況について

不登校関係・・・455件（35人）	問題行動・・・・・・・・8件（5人）
性格・行動相談関係・・・4件（1人）	就学・進学相談・・・・・・・・1件（1人）
親子関係・・・・・・・・7件（1人）	心と身体相談・・・・・・・・1件（1人）
いじめ相談・・・・・・・・2件（1人）	卒業生等・・・・・・・・96件（8人）

合計：574件

##### ② 2023年（令和5年4月～10月まで）の状況について

不登校関係・・・・・・・・332件（26人）	問題行動・・・・・・・・11件（1人）
就学・進学相談・・・・・・・・1件（1人）	先生との関係・・・・・・・・5件（4人）
発達相談・・・・・・・・1件（1人）	心と身体相談・・・・・・・・5件（1人）
その他・・・・・・・・8件（3人）	卒業生等・・・・・・・・50件（6人）

合計：413件

##### ③ 10月現在の実績：9名が利用

（小4年：2名 小5年：1名 中1年：1名、中2年：2名、中3年：3名）

※学校と相談を密にして対応していく。（子供を中心に据えて考えていく）

※あくまでも、イニシアチブ（主導権）は学校にある。教育センターは、相談・支援が役目（学校と家庭をつないでいる。）

※専門機関との連携（町就学支援員、SSW、町子育て支援課等）

※ケース会議（支援会議）への参加（必要に応じて）

※保護者相談（子どもの状況、進路等、情報共有、同じベクトルで支援）

#### (2) 富士山学習（防災教育）の充実 ～専門機関との連携について～

- ① 町立教育センター研究員会（富士山学習研究会）について  
防災に関する授業研究の実施（小立小学校・勝山小学校・勝山中学校）
- ② 中学校区引き渡し訓練への協力について
- ③ ジュニア防災士講座への協力について

##### ①町教育センター研究員会（富士山学習研究会）について（研究員は各校1名：12名）

※研究のテーマ

- ・世界文化遺産である「富士山」を児童生徒に伝えていくための授業実践をどう進めるか

◎富士山学習研究会ではこの4年間、防災教育に力を入れて研究を進めている

<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●西浜小防災授業（自然災害・火山噴火）</li> <li>●防災教育3年間の計画立案</li> </ul>	<p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●勝山小親子防災授業</li> </ul> <p>◇町内の引き渡しマニュアル統一（町教頭会）</p> <p>◇ジュニア防災士講座（町地域防災課）</p>	<p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●土砂災害の防災授業（町内5小学校）</li> <li>●防災教育の教育課程への位置づけ</li> <li>●富士山と防災に関するアンケート実施</li> <li>●勝山小親子防災授業</li> </ul> <p>◇勝山中学校区引き渡し訓練</p> <p>◇防災自由研究作品展（町地域防災課）</p> <p>◇ジュニア防災士講</p>	<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①溶岩流についての防災授業（小立小）</li> <li>②溶岩流実験のできる教員の育成と育成のための指導資料作成</li> <li>③勝山小親子防災授業</li> </ul> <p>◇勝山中学校区引き渡し訓練</p> <p>◇湖北中学校区引き渡し訓練</p> <p>◇勝山中防災教育ワークショップ（富士山研）</p> <p>◇ジュニア防災士講座</p>
---	--	---	--

①溶岩流についての防災授業（小立小）



担任が授業を進める



実験を通して学ぶ



研究者による解説

②溶岩流実験のできる教員の育成と育成のための指導資料作成



（6月）研究者による講義 ⇒ 教材研究 ⇒ 自主研修 ⇒ （10月）研究授業で実践



指導案や指導資料の検討

### 実験の前に指導する内容

授業の「つかむ」で、担任が以下の2点について指導を行う

- (1) 溶岩について学ぶ  
 動く流れるのも、冷えて固まったのも溶岩  
 自分たちの住んでいる地域の足下は溶岩
- (2) 火口について学ぶ  
 富士山は山頂の火口からだけでなく麓でも何回も噴火したことがある  
 ↓  
 もし富士山が噴火すると、私たちの住んでいるところに溶岩流が流れてくる可能性がある。

実験解説資料の作成



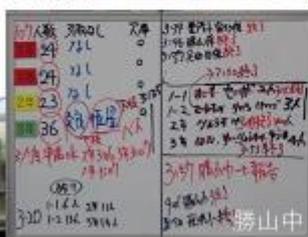
2023溶岩流実験2

実験解説動画の作成

## ②中学校区引き渡し訓練への協力について

### 引渡しの様子（勝山中学区）

4校(1中学、3小学校)と3保育所で引き渡しを実施



湖北中学校区でも  
 同様の訓練を  
 3校(1中学、2小学校)  
 と2保育所で実施

早く帰れる機会と思って、遊んでしまったり、保護者が集まってお話を始めてしまったりなど、災害について考えてもらう機会の創出も必要。

- ・ 初動での情報共有と指示
- ・ デジタル行政無線 移動系の使い方
- ・ 情報集約方法

といった課題が出てきました。

## ③ジュニア防災士講座への協力について

小学生40名が参加



町の防災について学ぶ



備蓄倉庫の見学



防災マップ作り



溶岩流実験



起震車で震度7を体験



水消火器の体験

### (3) 幼保小中連携の充実

#### 幼児期と児童期の 円滑な接続の在り方を探る

河口湖畔教育協議会  
幼年教育部会  
富士河口湖町立教育センター

#### 実践内容

- ◇保幼小情報交換会
- ◇保小の連携アンケート
- ◇ 保育所、認定こども園への視察

#### まとめ

##### ◇成果◇

- ・保幼小情報交換会により、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のつながりをもつことができた。
- ・保小の連携アンケートから、保育所側、小学校側、保護者側のそれぞれの面から、願いや困り感、課題を感じていることが明確になった。
- ・視察により、保育所やこども園が、それぞれ工夫して保育や指導を行っていることがわかった。



保幼小の接続の基盤として、「連携の在り方」を示すことができた

##### ◇課題◇

- ・保幼小情報交換会を、継続して実施できるようなシステムを構築していく。
- ・保小の連携アンケートにより明らかになった課題や不安を、解消していくための具体的な手立てを考察していく。
- ・どの子どもも安心して小学校生活を送るためには、架け橋期のカリキュラムにゆとりや工夫が必要となる。抜本的な見直しが必要である。



連携から、円滑な接続のための具体的な手立ての模索

#### (4) 情報教育研修の充実

##### 1. 目的

町内小中学生が ICT 活用能力を継続的、系統的に習得できるようにするために、町内小中学校に勤務する教職員に ICT に関する研修の機会を計画的に設ける。

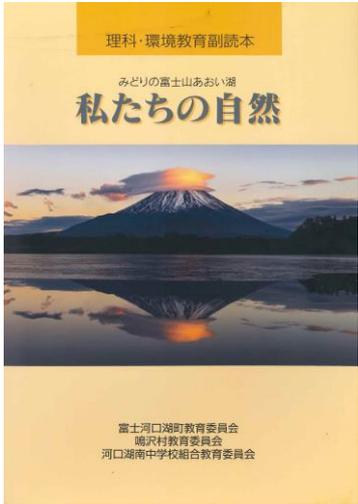
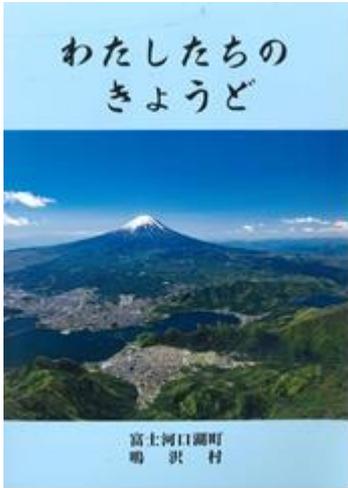
##### 2. タブレット端末研修計画

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R 4		スタートアップ研修【2時間】 12/27(火)1/10(火)		管理職研修【40分】 ・校長会 ・教頭会		R 5			コア研修前半【3時間】		
									スタートアップ研修【2時間】 8/16(水)		
									ミライシード研修【2時間】 8/10(木)		
									OPE 研修【2時間】 8/22(火)		
R 5		コア研修後半【3時間】 12/27(水) 1/9(金)				R 6			コアプラス研修【3時間】		
									スタートアップ研修【2時間】		
									コア研修前半【3時間】		
R 6		コア研修後半【3時間】				R 7					

##### 3. 研修実績 (令和4年～令和5年8月まで)

○スタートアップ研修受講者	79名
○コア研修(前半)受講者	145名
○ミライシード研修受講者	40名
○OPE 研修受講者	17名
○管理職研修受講者	28名
○延べ受講者数	309名

(5) 理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成

理科・環境副読本	社会科副読本
 <p>発行予定部数 1073部</p>	 <p>発行部数 1332部</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校5年～中学校3年で使用</li> <li>・令和5年～6年に改訂作業</li> <li>・令和6年度末改訂版発行予定</li> <li>・発行方法について検討中 (冊子・デジタル版)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3～4年社会科で使用</li> <li>・令和4年3月改訂版発行</li> <li>・令和5年度～令和8年度分の児童数冊子をまとめて作成</li> <li>・PDF版を町HP上で公開</li> </ul>

4 おわりに

平成17年に開設された教育センターは、平成27年度に中央公民館へと移転し、町役場の他の部署及び他機関との連携を密にしながら業務を充実させてきている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ学力充実や新しい教育課題に対応するため、9項目の事業を展開してきた。

学校の多忙化を避けつつ必要な業務を行うために、既存の組織や事業との連携を積極的に進めている。先に挙げた富士山学習研究会、保小連携、情報教育研修等は、事業に参加する関係者がそれぞれの役割を果たすことで、負担軽減を考慮しながら成果をあげることができた。教育センターのコーディネートの役割は事業を推進させる上で重要である。

一方、これまで継続してきた事業の充実に加え、今日的な課題への対応としての新たな事業や町教委からの要請による業務等が加わり、教育センターが担う事業は多岐にわたっている。教育センター自身の業務の精選と再構築も大きな課題である。

今後も、教育センターとして何を行うことが児童・生徒にとって必要かを大前提とし、富士河口湖町の教育課題や学校のニーズに応えた事業を行い、現場に生かす教育センターを目指し取り組みたい。